

義太夫

義太夫協会会報 第97号

平成 25 年 7 月 15 日
一般社団法人 義太夫協会 発行
〒104-0045
東京都中央区築地 4-1-1 東劇ビル 17F
Tel. 03(3541)5471
Fax. 03(3546)2334
<http://www.gidayu.or.jp>

協会と会員

―協会を活かそう―

池田 弘一

久しぶりに協会の定款、設立趣意書に目を通した。昭和四十五年六月十六日の日付がある。その中に、「義太夫人の一人一人が、真剣に義太夫節の再建策にとり組まねばなりません。協会の発展、即ち伝統ある古典芸術の維持と発展とは、社会的、国家的にも、大きな意義のあることとなります。いかなる芸術も、大衆の支持なくしては発展しません。世界に誇り得る古典芸術である義太夫節が斜陽化することは、我々義太夫人の恥であり、日本人の恥になります」とある。さらに平成十二年九月二十日に出された「社団法人三十年の歩み」も見た。昭和四十五年に始まる綿密な記録で、具体的な活

動の営みがありありと語られている。

これらを今の会員が見たことがあるだろうか。―読んだかとまでは言わない―、また、協会は会員にこれらの文書を学習の資料として提供してきたであろうか。

協会なる組織が発足した当時の会員と、今生きる会員との間には、生まれ育った環境、社会への視野、芸に対する姿勢、義太夫そのものに対する思い、などなど大きな微妙な異なるところが多い。「義太夫の斜陽化は恥だ」と言われても困惑するのではないか。

お客さんの方から見ても、昭和二十年代から三十年代にかけて、いや、もっとあとまで本牧亭の中入りでは「お膝送り」があり、宵ぶれでどよめきがおきた。あれは女流義太夫好きが沢山いたせいもあるが、楽しみごとの対象が限られていた、チャンネルが少なかったからではなからうか。それに今のお弟子さんは「大衆」と呼ばれることを喜ぶだろうか。

そこで私は思う。協会の存在意義を会員の一人一人が認識して、よいところ、思わしくないところを語り合うことを望む。協会あつての会員ではなく、会員あつての協会であるように願う。会員は協会を活かし、協会は会員の生きる道を拓いて行くように、その具体的な方策は、現代の社会に生きる会員が考え、その論議のあとに待ちたい。

池田 弘一（いけだ こういち）



昭和四年、東京に生まれる。早稲田大学教育学部卒業。昭和二十二年より長唄を学ぶ。昭和六十二年、都立工業高専教授を以て公立学校教員を退任。同年より学校法人佐野学園に勤務、理事。神田外語大学教授、講座「日本芸能史」。平成十二年、定年を以て教授職を退き、名誉教授・ミレニアムハウス館長。日本伝統芸能の伝承につとめる。義太夫協会では理事・監事職を歴任。NHKラジオ・深夜便では「邦楽夜話」に七年間連続出演。テレビ「日本の芸能」などにも出演。著書「長唄びいき」（青蛙房）。（今回より趣を変え、各界でご活躍の方々に巻頭エッセイをお願いするようになりました。）

(2013.7.15)

通常総会開催

五月二三日、築地社会教育会館にて通常総会が開催された。今年は役員改選の年に当たするため選挙が行われた。

新理事（五十音順）は左記の通り。

代表理事 会長 波多一索

理事 上田悦子（竹本 駒之助）

小島美恵子（竹本 土佐恵）

立花繭子（鶴澤 津賀寿）

西野宗祐（竹本弥乃太夫）

矢島照代（竹本 綾之助）

柳瀬信吾（竹本 葵太夫）

監事 児玉 信

原 道生

また、協会の運営方法についても討議がなされ、普及部、公演部等の活動態勢の見直しを行うことが決定した。

定期公演報告

竹本越春・新人奨励賞受賞

竹本越道門下の越春が、当会の新人奨励賞を受賞し、三月のお江戸日本橋亭公演で、受賞記念演奏となる「傾城阿波の鳴門」を語りました。

初舞台から八年。一番の思い出は、五年前に仮名手本忠臣蔵七段目で師匠と同じ舞台に立てた事だそうです。師匠の由良之助に、越春の力弥。この公演以降、越道は舞台から遠ざかっている、この唯一の共演は、越春にとつて宝物となっている様です。将来への抱負は、「師匠の様に皆に愛され、心に響く語りを目指したい」という越春。現在百一歳の越道も、今回の受賞をとっても喜んでいるとの事です。

演奏前の受賞式は、舞台上にて姉弟子達が見守る中行なわれ、越春の受賞に一門皆で花を添えました。

（写真・福田知弘）



本牧亭ライブがCDに

義太夫協会が所有する音源のデジタル化が始まったのは東日本大震災の一年半ほど前のことでした。段ボール箱の中で何年も眠っていたオープンテープの劣化具合を点検し、修復し、音声を再生するという実に緻密で根気のいる作業を担当して下さったのはSEIBI工房の鳥居誠さんでした。おかげで本牧亭時代の女流義太夫の演奏が、後世にまで伝えられるようになったのです。あと二、三年遅かったら手遅れになっていたかもしれません。ぎりぎりのところで消滅を免れた音源は、客席の拍手とかけ声が入った熱狂的なライブ（実況録音）盤、その雰囲気や皆様にも共に味わって頂きたく、これまで四回「女流義太夫 本牧亭を聴く会」を開催致しました。（内容は次ページ参照）

*

「本牧亭を聴く会」にいらしたお客さまから、CDにして頒けて貰えないかと提案されたのは、第一回の時だったと思います。SEIBI工房と義太夫協会は、課題として検討していたのですが、その方針が出る前に、急遽発売が決まったのが「鶴澤友路百歳祝賀記念CD」でした。幸運にも、修復した音源の中に竹本土佐廣・鶴澤友路両師による「心中紙屋治兵衛 河庄の段」が含まれていたため、土佐廣師御遺族の快諾も得て、

(2013.7.15)

友路師百歳のお誕生日に間に合わせる事が出来たのでした。記念CDは好評発売中、残部僅少です。

*

懸案だった「本牧亭を聴く会」のCDは、一枚一五〇〇円、送料一〇〇円で受注販売（オンデマンド方式）出来ることになりました。御希望の方はどうぞ義太夫協会までお申し込み下さい。但、CD R盤ですので稀に機種によっては再生できない場合もございます。歌詞カードはついていませんが、事前にお申し出いただければ、義太夫協会発行の詞章をプラス一〇〇円にてCDに同封することが可能です。

*

ところで、こうした貴重な音源はどのようにして残ったのでしょうか。義太夫協会が社団法人になったのは昭和四五年六月でしたが、それまでの年間は女流義太夫共和国の時代でした。共和会時代、「女流義太夫の番頭だった（御本人談）」竹本綾太夫さんによると、「出演者が円熟期・活力盛り、舞台も客席も楽屋も熱気があふれていた」そうです。綾太夫さんは、その証しを記録しようと、本牧亭の舞台頭上に集音マイクが設置され、テープ操作は三階の事務所で行えるようになっていたことを活用して、お客さまにもお師匠さん方にも気づかれることなく、収録することに成功したのです。しかし、当時はNHKでさえ放送したテープを保存せず再利用してしまうほど、テープはまだまだ高価な

ものでした。私は綾太夫さんと義太夫協会事務局の仕事を二十年間一緒にさせて頂きましたが、お若い頃の貧乏話を何べん伺ったかわかりません。生活が安定する前の綾太夫さんが、自前でテープを購入し録音を残して下さった！記録の重要性を先取りした若き綾太夫さんの慧眼と先見の明、実行力に改めて御礼を申し上げたいと思います。一昨年、急逝されましたが、もつという教えて頂ければよかった、お話を聞かせて頂けばよかったと悔やまれてなりません。合掌。

*

今回の「本牧亭を聴く会（その五）」は、十月二七日（日）夜、お江戸日本橋亭、竹本春華・豊澤仙廣両師。演目など詳細は追ってお知らせいたしますが、CDのご注文もお受けする予定です。

「本牧亭を聴く会」でお客様と一緒に鑑賞するならば、四、五十年前の本牧亭の客席にタイムスリップしたかのような臨場感が味わえること請け合いです。それをCDにしてじっくり聴いてみると、臨場感とはまた違った新たな発見が得られるに違いありません。「聴く会」とCD、どちらもお楽しみ下さいますように。

*

— お力添えを —

音源の公開には、御遺族の御了解が欠かせませんが、以下の方々の御連絡先がどうしてもわかりません。御遺族あるいはお弟子

さんなどゆかりの方を御存知の方、情報をお寄せ頂ければ幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。

【連絡先不明の方（敬称略）】

竹本綾華・竹本糸三・竹本光末・竹本小土佐・竹本住春・竹本歳栄・竹本素龍・竹本弥周・鶴澤清三・豊澤公純

水野悠子（女流義太夫研究家）

過去四回の「本牧亭を聴く会」で

公開された演奏

① 壺坂観音靈驗記 沢市内より壺坂寺の段

竹本土佐廣・豊澤猿公・鶴澤津賀昇

昭和四六年九月一日 本牧亭

② 新版歌祭文 野崎村の段

竹本土佐廣・豊澤仙廣

鶴澤津賀昇・豊澤公純

昭和四五年八月四日 本牧亭

③ 絵本太功記 尼ヶ崎の段

竹本越駒・鶴澤三生

昭和四五年八月三日 本牧亭

④ 御所桜堀河夜討 弁慶上使の段

竹本素八・鶴澤津賀昇

昭和四六年九月三日 本牧亭

伊賀越道中双六 千本松原の段

竹本素女・豊澤仙廣

昭和三九年二月十三日 第一証券ホール

【竹本素女紫綬褒章受章祝いの会より】

ひとみ座乙女文楽 海外公演ルポ

昨年のスロヴェニア・マリボルに続き、二〇一三年欧州文化首都であるスロバキアのコシツェと、ルーマニアのシビウ国際演劇祭でのひとみ座乙女文楽公演に、義太夫協会より竹本越孝と鶴澤寛也が参加しました。

プログラムは、「二人三番叟」（テープ演奏）・人形解説・人形ワークショップ・義太夫節解説（越孝・寛也）・「義経千本桜 道行初音旅」（演奏―越孝・寛也）という二時間弱の構成になっています。

まず六月六日のコシツェ公演。昼公演だったこともあり、客席の前の方には小学校低学年くらいの子どもがたくさん！

そして解説の「サムライ」「シズカ」という単語に（だけ）熱狂的に反応します。「サムライ」はゲームで知っているらしく、「シズカ」といえば、彼の地でも大人気のドラえもんのしずかちゃんのことなのだそうです。足などにガチャッと金具を装着しての人形体験も楽しそうにやり、越孝の解説の「大笑い」、ふふーははー、ふふーははー、にも大爆笑でした。ただ休憩後の肝心の道行上演のときには、子どもたちがごっそり帰ってしまっていました。平日でしたので授業時間に合わせてのことかと思われますが、ここからがもつと盛り上がるのに、とちよつと残念。もちろんほとんどのお客さまは最後までゆつくりと楽しんで下さいました。

七日はバスで十時間かけてシビウに移動。

八日のシビウは夜公演で、ほぼ全員大人のお客さまでした。通訳さんから、現地の方は説明より舞台を早く観たいという感じですが、と伺ったので、その場で解説を短めバージョンに替えたのは正解だったようです。シンプルにした分、逆に大変熱心に聴いて下さり、人形の動きも食い入るように見つめ、また床（ゆか）義太夫の演奏台）に近いお客さまは床の演奏に集中していらつしやる様子。上演後はスタンディング・オベーション！鳴り止まない拍手に一同大感激でした。ちようど日本からいらしていた演劇評論家の扇田昭彦さんにも、とてもおもしろかったですよ、と言っていただき、さらにうれしさの増したことでした。

今回の二都市とも昔ながらの石畳の道に古い建物の多い美しい街並で、もちろんたくさんさんの教会もあり、そして何より羨ましいのは、いくつもある中規模や小規模の劇場が普通に街に溶け込んでいて特別感のないことでした。日本もそうなるといいね、などと話しながら空き時間の散策も楽しんできました。



舞台上で記念撮影



左が公演をしたシビウのGONG劇場

永谷 暑中御見舞申し上げます

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭

お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭

新宿永谷ホール

(2013.7.15)

シリーズ人物像

(正会員への取材のコーナーです)

竹本駒之助 編 第六回

綱大夫師匠や、八尾の大隅師匠、先代の寛治師匠、綱造師匠など、錚々たる方々に稽古をして頂き、同じ作品でも複数の方からの稽古を受けることが出来たことは、私にとって非常に勉強になりました。

また、綱大夫師匠は「今度な、『浜松』を稽古してあげるから、NHKに言うとかから。」と。何と録音の段取りまでして下さったのです。当時は、なかなか女の人がNHKの邦楽番組で放送されることはありませんでした。

稽古でも、一回語って下さり、次に私が語ると、「ココはこう行こうか、舞台上がったら、そのままではいかんから、ココはこうしゃくるねん。」と、実際に舞台上がらなければ分からないことまで教えて下さるわけです。誰の弟子であろうが分け隔てなく皆で手をかけて下さって、私は非常に貴重な経験をさせて頂いたと思っています。

友次郎師匠に三番叟の稽古をして頂いた時は、私は千載だったのですけれど、「ちりやたらり〜」「ちよつと待ち。ちりり〜や〜た〜りり〜、ここへ来なさい(もつと大らかに高く言うように)」と。

越路師匠が、「君は幸せやったね、おなご

やから僕等よりよっぽどええ稽古してもろてるやないか、幸せやね。」と。師匠は男の方ですから、そこまでどこもかしこも稽古に行くという訳にはいかないわけです。

今から思えば、本当に良い経験をしてみました。でも、もともと私にしてみれば、私をこの世界に引き留めるために、皆で親切にして下さるのではないか、たとえば筋が良いなどとおだてられたとしても、それは私を引き留めるため、そのようにおっしゃって下さっているに違いない、と、そんなふうに思っていたのです。

と申しますのも、当時は私の後に若い人が入ってきていませんでした。二十歳くらい年上のお母さんみたいな世代から私まで飛んでいて、なおかつ若い世代もないわけですから。

私が出たとえ続けたとしても、一人だけではどうしようもない、若い三味線弾きさんが入って来るわけでもない、そんな状態のままでは一体どうするのだろうと。ですから、たとえ引き留められたとしても、いつまでも続けようなどとは、当時の私には到底思えませんでした。今思うと、勿体ないことですね。あの時から本気出していたら、もつともつと良くなっていたのかもしれない、つくづくそう思います。

でも越路師匠に会ってからは、これはやめるべきではない、本当にこれは面白いなあと。「こう言えんか？言えるやろお？こう行きたいんや？」とおっしゃる。喜左衛門師匠が

非常に厳しくされていたことを私に教えて下さって。節落ちとか、どこを抜くと文章がつながって聞こえるとか、読んだような音で行けるとか、ずーつと考えておられるんです。この地合はこう言うた方がいいなとか、字配りとか、これは一つ抜こうかとか、師匠と相談したことを私に言うて下さるわけです。すると私は「ああ、ほんになるほど。」と。ね、そういう風に考えていくのは、本当に面白いでしょう？

いかに文字を大切に、文章を大切に語るかということ。産み字をどのように言うか、というの、とても大切です。オクリの「一間へ入りにけり」でも、「一間へー、エー、エーエー」こんな泥臭く言わないで、ちゃんと「一間へ入りにけり」という文章にならないといけない。

刃傷の判官であっても、若狭之助であっても、言い方が全然違う。だから稽古はしていただかねばいけないんです。

浄瑠璃を語らなくても、本読んでいるだけでも、悲しいところは悲しい、浄瑠璃の文章はそういう風に出来ています。文章自体が既に非常に良く出来ているから、語らんでもよろしい、本読んだらよろしい、と弥七師匠がおっしゃったと伺いましたが、本当にそのように思います。

そして最終的には人間性が出ますね。芸に関しては終わりが無い。これでええ、という事はないですから。だから、いつまでも勉強せないと、そう思います。

ほんに気がメーリヤス

(十三杯目)

鶴澤慎治

前回会報が発行されてからこの会報が出るまでに、歌舞伎界は多くの大切な方を失いました。

勘三郎丈、團十郎丈…そして、去る五月、我々竹本の大先輩である喜太夫師が、京都南座でのお出番の後、急逝されました(別欄をご覧ください)。

師とは、実はこれまであまり舞台でのご縁がなかったのですが、今回ご一緒させて頂いて、その丁寧なお仕事ぶりに改めて感嘆していた矢先のことでした。

師が亡くなられた当日、たまたま私が手元で収録していた舞台の音声を、せめてものお慰みにとご遺族に差し上げたましたところ、ご葬儀でそれを流して下さったのと、人で、人の一生と同じく、音も浮かんでは消えていくものではあるものの、こうして形を留めておく方法がある現在というのは、その意味ではありがたい時代なのかもしれません。

○

さて、ここでメリヤスの話に戻りますが、その南座での舞台は、「伊達の十役」…皆さまご存じの「先代萩」御殿をアレンジした一幕です。

この場面で、政岡が若君に「この館には

悪人はびこり云々」という台詞で弾かれる「竹の縁」、これはまさにこの御殿のような場面がよく用いられるメリヤスです。

元の曲は同名の地歌の合の手ですが、私が今回弾いていた手は、お手本が重松師のもので、比較的原曲の姿をとどめております。これまたいつものたとえ話になりますが、テレビドラマやアニメなどで、いわゆるその番組の主題歌が、劇中のポイントポイントで、ある時はそのまま、ある時は歌詞のないインストウルメンタルを、速くしたり遅くしたり、またあるときは形を変えて用いられるのと同じことが、我がメリヤスにても行われています。

歌詞を抜いた伴奏の手をメリヤスにしたものとしては、パツと思いつくところでは「京の四季」ですとか、「ひとつくずや」辺りになりましょうか…まあ、「京の四季」は長唄さんでもお使いになるくらいだから分かるとしても、例えば今回の「竹の縁」ですとか、「アサドテ(朝戸出)」といった曲が、一体当時どれくらい流行していたものなのか、学生時代に、いわゆる九州系の地歌箏曲を中心に勉強した私には、想像しにくいものがあります。

逆に、なんで「楯枕」とか、「笹の露」とか、キャッチーな手の多い曲がメリヤスになのかしらん…という疑問が、即ち「現在あるような、地歌出自のメリヤスを使った演出は、それらの曲が作られた文化文政期頃から行われるようになったのではないか」

「京流手事物が流行った頃には、少なくとも地歌出自のメリヤスを使う部分については、既に現在のような演出になっていたんじゃないか」という仮定になるのですが、これはもつと多角的に検討しないと分からないことではあります。

まあ、何にしても、著作権が、盗作が、パクリが…と小うるさいことをいわない時代の産物のおかげで、我々も有り難く仕事をさせていただいている、という、それだけは間違いなさそうです。

【訃報】竹本喜太夫師

伝統歌舞伎保存会会員で、竹本協合理事長の竹本喜太夫師が、五月七日ご逝去されました。享年七十四歳。法名は「琅昌院喜峯眞響居士(ろうしょういんきほうしんきょうこじ)」



幼少の頃より竹本土佐廣師に師事され、そのご縁で竹本米太夫師に師事、竹本喜太夫を名乗り、昭和五十二年十月「双蝶々曲輪日記」端場

での初舞台以降、常に一線の舞台で活躍されていましたが、五月京都南座出演中、宿舎に帰られてから急に体調を崩され、その晩に帰らぬ人となりました。昨年には長年の功績を認められ、文化庁長官表彰をお受けになられたばかりでした。

ご冥福をお祈り申し上げます。

(2013.7.15)

協会の主な動き

【平成二十四年十二月～平成二五年六月】

十二月二二日（土）

義太夫教室中級終了

於 豊川稲荷文化会館

〈平成二十五年〉

一月十二日（土）

「ぎだゆう座」初春公演

於 お江戸両国亭

一月十二日（土）

義太夫教室上級開始

於 豊川稲荷文化会館

一月二十日（日）

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

二月一日（金）・二日（土）

「ぎだゆう座」公演

於 上野広小路亭

二月二六日（火）

女流義太夫演奏会・第三回伝承者研修

発表会

於 国立演芸場

三月一日（金）・二日（土）

第八十回 じよぎ

於 お江戸上野広小路亭

三月九日（土）

義太夫教室OB会・第六五期卒業発表会

三月十六日（土）

義太夫教室第六五期閉講式

於 豊川稲荷文化会館

三月二三日（土）

第四三回 邦楽演奏会

於 国立小劇場

四月一日（月）・二日（火）

ぎだゆう座

於 お江戸上野広小路亭

四月十三日（土）

義太夫・三味線一日体験教室

於 豊川稲荷文化会館

四月二十日（土）

義太夫教室第六六期開講式

於 豊川稲荷文化会館

四月二三日（火）

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

五月一日（水）・二日（木）

第八一回 じよぎ

於 お江戸上野広小路亭

五月二十日（月）

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

五月二三日（木）

義太夫協会平成二五年度総会

於 築地社会教育会館

五月二五日（土）

第九八回 大日本素義会

於 鳥越神社内 白鳥会館

六月一日（土）・二日（日）

ぎだゆう座

於 お江戸上野広小路亭

六月二十五日（火）

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

七月一日（月）・二日（火）

第八二回 じよぎ

於 お江戸上野広小路亭

《会員訃報》

豊澤浩樹氏 逝去

三味線弾きの豊澤浩樹氏が三月二四日、癌のため亡くなりました。享年四八。歌舞伎竹本の三味線弾きを経て、日本舞踊の専門の地方（じかた）として広く活躍されていきました。

河竹登志夫氏 逝去

歌舞伎研究の第一人者で文化功労者、義太夫協会顧問もつとめられた演劇研究家の河竹登志夫氏が五月六日、心不全のため亡くなりました。享年八八。河竹黙阿弥の曾孫で歌舞伎と海外の演劇を比較した比較演劇学を提唱されました。三月の新生歌舞伎座で行われた「古式顔寄せ手打式」には元気なお姿で出席されました。

竹本綾春氏 逝去



関西の女流義太夫の太夫の最長老、竹本綾春氏が六月一八日、胸部動脈瘤破裂のため亡くなりました。享年九六。今年で舞台生活八〇年、四月二三日に義太夫協会主催公演「女流義太夫演奏会」(国立演芸場)に出演し、孫の豊澤雛文の三味線で「寺子屋の段」を勤められました。

《訃報》

竹本喜太夫氏 逝去

歌舞伎竹本の太夫で義太夫協会ともご縁の深い竹本協合理事長の竹本喜太夫氏が五月七日、心不全のため亡くなりました。享年七四。昭和五二年に初舞台、時代物を得意とし、平成二四年、文化庁長官表彰。亡くなる七日まで京都南座の「五月花形歌舞伎」に出演されていました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

《寄付金》

大日本素義会 様 三万円
竹本協会 様 一万円

《特別会員》

大井田朗 様、葛西聖司 様、上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会 様、菅野昌行 様、菅野光雄 様、鷺坂忠明 様、篠原佳彦 様、新藤勝之 様、竹内久 様、原道生 様、藤江清克 様、間野幸也 様、宮崎元 様、山中東洋平 様、米澤武 様、渡辺康成 様、

《法人会員》

内藤(株) 様

■ 今後の主な予定 ■

【平成二五年七月〜平成二六年三月】

七月二十日(火)

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

八月一日(木) 二日(金)

ぎだゆう座

於 お江戸上野広小路亭

八月二一日(水)

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

九月一日(日)、二日(月)

第八三回 じよぎ

九月十六日(月・祝) 於 お江戸上野広小路亭

第六回 竹本土佐恵の会

於 内幸町ホール

九月二十日(金)

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

十月一日(火) 二日(水)

ぎだゆう座

於 お江戸上野広小路亭

十月二二日(火)

女流義太夫演奏会

於 国立演芸場

十月二六日(土)

第十七回 竹本越孝の会

於 谷中・全生庵

十月二七日(日)

本牧亭を聴く会(その五)

於 お江戸日本橋亭

十一月一日(金)、二日(土)

第八四回 じよぎ

於 お江戸上野広小路亭

十一月九日(土)

母さん、あんまりな(越若)

於 浅草・木馬亭

十一月二十日(水)

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

十二月一日(日) 二日(月)

ぎだゆう座

於 お江戸上野広小路亭

十二月二十日(金)

女流義太夫演奏会

於 紀尾井小ホール

〈平成二十六年〉

一月十一日(土)

「ぎだゆう座」初春公演

於 お江戸両国亭

一月二十日(月)

女流義太夫演奏会

於 お江戸日本橋亭

二月一日(土)・二日(日)

ぎだゆう座

於 上野広小路亭

二月二十五日(水)

女流義太夫演奏会・第三回伝承者研修
発表会

於 国立演芸場

三月一日(土)・二日(日)

第八五回 じよぎ

於 お江戸上野広小路亭

三月三日(月)

第十一回 素浄瑠璃の会(三寿々)

於 お江戸日本橋亭

三月八日(土)

義太夫教室OB会・第六五期卒業発表会

於 スペースSF汐留

三月十五日(土)

第四四回 邦楽演奏会

於 国立小劇場

掲載広告大募集!

義太夫協会では、会報に掲載する広告を募集しております。会報の発行は一月と七月の年二回です。毎号の継続的な掲載ばかりでなく、一回限りの掲載でも結構です。どうぞお気軽に義太夫協会までお問い合わせ下さい。

テレビ放映のお知らせ

NHK「にっぽんの芸能」(Eテレ)

【演目】

卅三間堂棟由来

平太郎住家より木遣り音頭の段

【放送予定日時】

七月十九日(金) 夜十時

七月二十六日(金) 昼十二時(再)

【出演】

竹本駒之助・竹本綾之助・竹本土佐子

竹本土佐恵・竹本越孝・鶴澤津賀寿

女流義太夫定期演奏会 日程

会場、開演時間が月により異なります。
ご確認をお願い致します。

〈二〇一三年〉

七月二十日(金) お江戸日本橋亭 十八時半

八月二日(水) 国立演芸場 十八時半
九月二十日(金) お江戸日本橋亭 十八時半
十月二日(火) 国立演芸場 十八時半
十一月二十日(水) お江戸日本橋亭 十八時半
十二月二十日(金) 紀尾井小ホール 十九時

〈二〇一四年〉

一月二十日(月) お江戸日本橋亭 十八時半
二月二十五日(水) 国立演芸場 十八時半
三月二十日(木) お江戸日本橋亭 十八時半

義太夫協会 会員募集!

一般社団法人義太夫協会は、義太夫節とその演奏家を応援していただく為に、広く皆様方のご支援をお願いいたしております。ご家族やご友人を、是非ご紹介ください。

◆賛助会員 年会費 五千元

義太夫協会主催女流義太夫公演のチケットを通年割引価格にてお求めいただけます。

通常三千元のところを、二千元(割引価格)にいたします。

◆特別会員・個人

年会費 一口 一万円(何口でも)
賛助会員と同様のチケット割引の他、一口につき、年度内通用のご招待券を

一枚進呈。

◆特別会員・法人

年会費 一口 五万円(何口でも)
賛助会員と同様のチケット割引の他、
一口につき、年度内通用のご招待券を
五枚進呈。

《編集後記》

今回より、電腦三寿々+αによるリニ
ーアル紙面でお届け致します。無記名記事
は編集委員が書いております。(編集長)
会報編集委員/鶴澤寛也(編集長)・
竹本佳之助・鶴澤賀寿・鶴澤三寿々
編集協力/(一社) 義太夫協会 事務局

三味線/製造・販売・張替・修理

きむら

〒151-0066

東京都渋谷区西原 1-26-14

tel.&fax. 03-3466-2156

PHS 070-5457-5687

義太夫協会音源シリーズ

CD 好評発売中!

「心中紙屋治兵衛 河庄の段」

竹本土佐廣・鶴澤友路

二一〇〇円(税込) *製品版残部僅少

《本牧亭を聴く会シリーズ》

(一) 「壺坂観音靈驗記」

沢市内より壺坂寺の段

竹本土佐廣・豊澤猿公・
鶴澤津賀昇

(二) 「新版歌祭文 野崎村の段」

竹本土佐廣・豊澤仙廣・
鶴澤津賀昇・豊澤公純

(三) 「絵本太功記 尼ヶ崎の段」

竹本越駒・鶴澤三生

(四) 「御所桜堀河夜討 弁慶上使」

竹本素女・豊澤仙廣

「伊賀越道中双六 千本松原の段」

竹本素八・鶴澤津賀昇

各 一五〇〇円(税込)

受注生産方式の為に注文後十日ほどお時
間をいただきます。
詳しくは義太夫協会へお問い合わせくだ
さい。

地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

代表取締役
常務取締役
専務取締役

渡 辺 康 成
高 山 早 苗
渡 辺 貞 稔

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684